

農村地域における口 - ドキル多発地点の周辺環境 Surroundings of animal roadkill points in rural area

今井敏行 服部俊宏

IMAI Toshiyuki HATTORI Toshihiro

はじめに

農林水産省は平成 10 年度に「農道環境保全調査指針」を定めたが、この調査では口 - ドキルデータが少なくそのための有効な調査の提案はされていない。しかし、野生動物が多数生息する地域を通過する農道ではしばしば口 - ドキルが発生しているため、高速道路や一部の国道等で見られる高価な対策ではなく農村道路に適した対策及び調査方法を模索する必要がある。また、農村での口 - ドキルの対象は中小動物が多く、調査研究の事例も少ない。なお、県内の野生動物の生息域分布については青森県が過去に調査しているが、メッシュ間隔が大きい上その後の変化もあり参考資料としての利用は限られている。

平成 14 年度の報告では農村地域における口 - ドキル調査方法を検討し、国県道等におけるロードキルの発生状況について述べた。

本年度は、農村地域住民の目撃情報による農村道路での口 - ドキルに関する簡単な調査結果及び、国道データを用いて多発地点の周辺状況の特色を検討した結果を報告する。

1. 農村地域における野生動物目撃情報と口 - ドキル

大関・安達(H14 年度卒論)は、農村地域における野生動物のロードキル状況を把握するため、平成 14 年 11 月に十和田市の奥入瀬川右岸における 15 町内会の住民に対し、アンケート調査を行った。調査票は 143 部配布し、48 部を回収した。野生動物に関心を持つ人が減少したため回収率は低かった。その結果道路上で負傷・死亡していた野生動物の 1 年間の目撃は、タヌキ 32 件が最も多く、キツネ 27 件、カモシカ 17 件であった。また、住民が野生動物に出会う場所は、道路 22 件、畑 16 件、田 10 件で、山林、牧草地、川辺での遭遇はそれほど多くなかった。また中小の野生動物による農産物被害を回答した住民もカラスによるものを除くと多くなかった。

口 - ドキル多発地点 4 カ所について現地を踏査し、雪道での足跡調査を行った。森と畑に接した A 地点では橋の下や上にタヌキと思われる多数の足跡があった。集落近辺の B 地点では、道路沿いの畑にタヌキやウサギの足跡が見られ、ウサギの道路横断の痕跡も見られた。民家が密集した C 地点では、急斜面に沿って移動した痕跡があり、民家の敷地内にも多数の足跡を残していた。水田に囲まれた集落近辺の D 地点では、タヌキと思われる道路横断跡があり、農地の中にも多くの足跡が残っていた。いずれも、夜間照明は無いが見通しは良く、両側が畑や水田、森林で片側が斜面になっているところが多かった。

2. 国道 4 号線における口 - ドキル発生状況

十和田出張所管内の国道 4 号線(約 79 km)における野生動物の種類別口 - ドキル発生状況をみると、平成 12 年 4 月から 14 年 11 月までの 2 年 8 か月間で、表 - 1 のようであった。

表 - 1 国道4号線十和田出張所管内での種類別口 - ドキル発生数

タヌキ 112匹、ウサギ 24匹、リス 3匹、キツネ 3匹、イタチ 1匹、カラス 9羽、タカ 2羽、ハト 1羽、カモ 1羽、その他の鳥 8羽
--

キロポストにより4号線を1km毎に区間を設け、野生動物の口 - ドキル多発区間（上記期間3件以上発生）を調べると表 - 2 のようであった。

表 - 2 ロードキル多発区間の頻度

10件/km 1区間、8件/km 1区間、7件/km 1区間、6件/km 1区間、5件/km 6区間、4件/km 4区間、3件/km 7区間
--

ほぼ年間1件以上の発生区間である。

3. ロードキル多発区間と土地利用

中島（H15年度卒論）は上記多発区間の内4件以上発生した区間の特色として、区間毎に路線両側500m間での土地利用を25,000分の1地形図により把握した（表 - 3参照）。

この結果から、農地と林地の入り交じった地域が多いことがわかる。その他には河川、道路、鉄道などが含まれており、動物の移動を妨げる要素の存在も特徴的である。

鳥獣類の生息にとって、土地利用の構成が多様複雑であり、高木林・低木林・草原の面積比が2：1：1で、モザイク状に配置されているのが良いという報告もある。

ロードキル発生には、野生動物の移動に関わる沿道の地形上の特色も重要である。

表 - 3 ロードキル多発区間の土地利用（中島作成）

キロポスト	件数	農地	林地	荒地	集落等	その他
671-672	10	47	24	17	7	5
679-680	8	49	28	6	7	10
651-652	7	72	5	3	9	11
683-684	6	80	8	4	2	6
657-658	5	31	58	0	9	2
667-668	5	60	4	4	31	1
677-678	5	37	36	5	17	5
678-679	5	51	18	10	17	4
688-689	5	28	58	8	1	5
689-690	5	29	44	4	11	12
635-636	4	49	23	1	12	15
647-648	4	20	72	2	2	4
653-654	4	5	79	8	4	4
690-691	4	13	71	7	0	9

4. ロードキル多発地点の地域的特色

沿道に野生動物が多数生息していても、ロードキルがその区間全体で発生している訳ではない。路側の地形条件と野生動物の道路交差場所の特色を解明し、各種対策を行う場所を把握することが重要である。そこで、上記多発区間を平成15年の冬季に現地踏査し、動物の道路横断可能性を検討した。また、雪道の足跡分析により季節的な制約はあるが、道路横断場所の特定につなげることとした。その結果、急崖や盛土のり面、擁壁あるいは併走水路などのある地点では横断が見られず、未舗装農道の取り付けや藪状の沿道空地等からの横断可能性が高いこと、見通しの良い畑からの横断は見られないこと等が判明した。また足跡調査から野生動物の橋梁周辺や堤防上の移動も特徴的であった。

おわりに

今後は農村道路や新設広域農道などにおける多発地点の把握を行いたい。なお、青森国道事務所十和田出張所より貴重なデ - タの転写を許可頂いた。お礼を申し上げます。